

【お詫びと訂正】

マイクロチップマニュアルに関するお詫びと訂正のお願い

日本獣医師会雑誌 第66巻第11号に同封して、小動物臨床開業会員にお送りしておりました、マイクロチップマニュアルですが、下記のとおり誤りがありました。誠に恐れ入りますが、訂正していただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

- p10 共立商会株式会社 → 株式会社共立商会
同社AVID ミニトラッカー3リーダー価格40,000円 → 42,000円
- p11 共立商会株式会社 → 株式会社共立商会

本件の問合せ先：日本獣医師会マイクロチップデータ登録窓口 ☎03-3475-1695 担当：中村

平成25年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会(千葉)プログラム

市民公開 狂犬病対応シンポジウム

台湾で発生した狂犬病からわが国の対策を考える

開催日時 平成26年2月21日(金) 13:00～17:00

開催場所 幕張メッセ・国際会議室

プログラム内容

- 挨拶 藏内勇夫 (公益社団法人 日本獣医師会会長)
- 講演
 - 1 台湾における狂犬病発生に伴う農林水産省の対応 熊谷法夫 先生 (農林水産省)
 - 2 台湾における狂犬病発生に伴う厚生労働省の対応と危機管理対応
マニュアルの整備 中嶋建介 先生 (厚生労働省)
 - 3 台湾国内におけるイタチアナグマ等で発生した狂犬病に対する
取り組みの現状と今後の課題 井上 智 先生 (国立感染症研究所)
 - 4 日本における狂犬病対策の在り方 山田章雄 先生 (東京大学)
 - 5 我が国で36年ぶりに発症した人の狂犬病事例 二宮 清 先生 (洛和会丸太町病院)
- 総合討論

行事等

12月3日：獣医師賠償責任保険中央審議会
12月4日：北海道獣医師会JACA獣医技術研修員の施設研修
：平成26年度動物愛護週間中央行事第1回プログラム委員会
12月6日：第2回学校動物飼育支援対策検討委員会
12月10日：平成25年度中間監査

：第5回理事会
12月13日：健全な家畜取引推進のための啓発普及事業に係る第2回専門委員会に矢ヶ崎専務理事出席
12月17日：第28回動物感謝デー企画検討委員会
12月18日：第28回日本獣医師会雑誌編集委員会
12月20日：業務運営幹部会議
12月25日：第1回災害時獣医療活動検討委員会

書評

紹介

『牛病学』〈第三版〉

小沼 操 (動物用ワクチン-バイオ医薬品研究
究会会長・北海道大学 名誉教授)

『牛病学』〈第三版〉が2013年10月に刊行された。〈第二版〉が1988年に刊行されて以来である。新刊は、〈第二版〉を一新し、基本的には〈第一版〉にもどった体裁となっている。

『牛病学』では牛病をどのように記述したらよいのか、また読者は何を欲するのだろうか。〈第一版〉の1,210頁から、〈第二版〉〈第三版〉と版を重ねるごとに頁数を各々60%弱減らし、コンパクトにした。

〈第一版〉では牛の解剖、生理から説き起こし、牛の病気を網羅的に記述した。

〈第二版〉では、牛の疾病はこの一冊を見ればわかるように臨床を重視し、研究者のみならず現場の臨床家の実用書を目標とした。そこで臨床検査法から説き起こし、画像、細胞診断法、病理診断法を述べ、感染症のみならず内科、外科疾病など牛の想定される疾病を網羅し、臨床症状からすばやく疾病をスクリーニングできるよう工夫がこらされた。加えて、感染症の予防という面から免疫療法などを記述した。その分、牛の解剖、生理など基礎事項は専門書に譲った。

今回の〈第三版〉では、畜産を取り巻く社会状況の急激な変化を反映して疾病の網羅的な記述を改め、感染症、繁殖障害、経済疫学などに注目した。特に感染性疾病を重視し、「感染症の制御」「各種感染症」の項目に全体の45%余りを充てている。同時に〈第一版〉を踏襲して、牛の「生理・育種」「栄養・肉質」「繁殖と繁殖障害」の項目にも45%を充てている。また、新たに「経済疫学」の項目を

設けて、畜産における費用対効果の実例を挙げて述べているのが目を引く。

今回の改訂までの四半世紀の間、畜産を取り巻く環境は大きく変化した。一つは酪農戸数の急激な減少がある。酪農戸数は1963年ピーク時の41.8万戸から2012年の2万戸とピーク時の1/20まで減少し、大規模化が進行している。もう一つが、畜産農家のみならず日本の社会を震撼させるような家畜疾病の勃発にあった。その例として2000年と2010年の口蹄疫の発生、2001年のBSEの発生、2004年から2011年にかけての高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)の発生がある。ここ10年あまり、社会的にインパクトの大きな疾病(口蹄疫やBSEなど)が後押しをして、今回の〈第三版〉では、牛の疾病のうち感染症の項目が重視されたものと思われる。各感染症の記述は簡潔で、口絵写真を挿入し理解しやすい工夫がこらされている。〈第二版〉で多くの頁数で記載されていた診断法ならびに外科的、内科的疾患については、それぞれに専門書が出版され、それらを参考にできることから割愛したものと思われる。

現在、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉が進められている。TPP成立後の日本の畜産を考えた時、今回の〈第三版〉は時代の流れに即したものとして読者に受け入れられるものと思われる。

編者：明石博臣、江口正志、神尾次彦、
加茂前秀夫、酒井 豊、芳賀 猛、
眞鍋 昇

発売日：2013年10月1日発行

判型：B5判 448頁

定価：14,175円(本体13,500円+税5%)

問合せ：(株)近代出版

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-9

☎03-3499-5191 FAX 03-3499-5204

紹介

◎新刊

ペットのトラブル相談 Q&A —基礎知識から具体的解決策まで—

平成25年施行の改正動物愛護管理法・政省令、基準等に基づき、トラブルの実態、法的責任、対応策等についてわかりやすく解説するとともに、ペットをめぐるトラブルについて、法的な観点からの解決に向けた方策を示した、トラブル相談を受ける消費生活センター関係者、自治体担当者のほか、法律実務家等必携の書。

著者：渋谷 寛，佐藤光子，杉村亜紀子

発刊：2013年10月31日

判型：A5判 292頁

発行：民法法研究会

定価：2,415円（税込）

紹介

◎新刊

～動物たちにつたえたい～「ありがとう」. 46の物語

本会主催の「動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」の スポンサー企画として毎年開催された動物感謝の手紙コンテストに応募された1330通の手紙の中から、子どもの頃に飼っていた今は亡き犬の思い出、今でもそばにいてくれる猫への愛情等、もの言わぬ動物たちへの溢れる想いが描

かれた46の物語を収録した書。

発刊：2013年10月

判型：四六判上

発行：扶桑社

定価：1,050円（税込）